

病虫害防除所情報第9号

令和3年3月24日
山梨県病虫害防除所

【モモせん孔細菌病 4～5月の防除について】

1. 状況

モモの開花予想(果試 3/22 発表)では、開花始めが平年より 11 日早い見込みである。生育期の防除開始が満開直後からになるので、生育状況に応じた防除を行う。

2. 防除対策

春型枝病斑は開花期頃から発生し、落花期頃に目立つようになる。4～5月に降雨が多く気温が高いと、春型枝病斑からの病原細菌の伝搬が増え、葉や幼果での発病が多くなる。

(1) 耕種的防除

春型枝病斑のある枝は、葉や幼果への伝染源となるため見つけしだい、出来るだけ基部から取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。

また、芽が枯れた枝や蕾が膨らまず、展葉が遅い生育不良枝等も、病原細菌に感染している恐れがあるため、同様に取り除く。

特に、樹冠上部に発病枝を放置したままでは、樹全体に感染が拡大するので注意する。



結果枝の途中に発病した芽枯れ

(2) 薬剤防除

本病は、発病してからの防除が難しいため、予防散布(表1)に努める。雨水によって感染拡大するので天気予報を確認し、降雨が続くと予想される場合は、降雨前の早めに防除を行う。

表1 モモせん孔細菌病の生育期防除

防除時期	防除薬剤(100㎡あたり薬量)	散布量	注意事項
満開直後	アグレプト液剤・水和剤 1,000倍(100cc、100g)	400 $\frac{\text{リットル}}{10\text{a}}$	○散布に当たっては、かけムラのないよう丁寧に行う。 ○アグレプト剤は無核果を生ずるため隣接のブドウにかからないように注意する。また、オウトウの隣接園では用いない。他の果樹へも、飛散に注意する。 ○マイコシールドは、ブドウ・カキの隣接園では飛散に注意する。
落花期	(日川白鳳までの早生品種) マイコシールド 1,500倍(66g) (日川白鳳より遅い品種) アグレプト液剤・水和剤 1,000倍(100cc、100g)		
がく割後(5月上旬)	マイコシールド 1,500倍(66g)		
幼果期 (5月中旬頃)	(晩生～極晩生種) マイコシールド 1,500倍(66g)	500 $\frac{\text{リットル}}{10\text{a}}$	○ネクタリンは、マイコシールドを用いる。 ○天候不順が続く場合は、追加防除を行う。
袋かけ直前 (5月下旬頃)	(晩生～極晩生種) マイコシールド 1,500倍(66g)		

※防除薬剤は、登録内容を確認し、使用回数や収穫前日数に注意する。